

本年度学校教育の努力点とその推進計画

自分の目標に向かって、学び続ける児童の育成

～学び合いを活かして～

I テーマ設定の背景

名古屋市の学びの基本的な考えを示した「ナゴヤ学びのコンパス」では、名古屋市の全ての子どもが学びを通して、自分らしく、幸せに生きていくことができるよう、自律して学び続けることの大切さについて述べている。本校における「自律して学び続ける」とは、以下のような姿が見られると考える。

自律して学び続ける姿

- 興味・関心等に応じ、やりたいことを見付けて取り組む
- 学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定しながら学ぶ
- 学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける

人は一人一人違うことから、それぞれに合った学び方があり、そのために、子どもたちが、「できるだけ自分に合った進度や学習方法、学習内容を選んだり決めたりできる」という意味において、学びを個別最適化することが大切だと考える。

また、個別最適化な学びを実現するために、子どもたちが必要に応じて、仲間や大人の力を借りたり、人に自分の力を貸したりする、学級の仲間や教師との学び合い・「ゆるやかな協働性」を大切にしていきたい。

本校では、自分の考えをもち、相手に伝えることができるように実践を行ってきた。令和5年度の努力点では、「相手の考えを知り、自分の考えをもつことができる児童の育成」と題して、研究を行ってきた。言葉でコミュニケーションをはかる機会を多くもつことで、児童が仲間と共に学び合い、相手の考えを知り、自分の考えをもつことができる児童の育成を図ってきた。児童は、友達の考えを知る中で、新たな考えを再構築することができ、学びが深まった。昨年度までの実践は、学級の仲間や教師との学び合い・「ゆるやかな協働性」につながるものであり、この取り組みを生かし、自律して学び続ける児童の育成していきたい。

3つの「自律して学び続ける姿」を目指す中で、今年度は、「学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定しながら学ぶ」に重点を置き、研究を進めていきたい。

Ⅱ 研究の方法

「自分の目標に向かって、学び続ける児童」の育成のためには、学級の仲間と学び合える環境作りと自分の目標を設定し、それに向かって学ぶ授業実践が必要である。

1 学び合える環境作り

児童が「学級の仲間と学び合いを活かして」学びに向かう基盤となる、学級の仲間と学び合える環境作りを行う。

＜学び合う環境作りの例＞

- 学級会などを利用した学級全体の話し合い活動
 - ・ 様々な意見を知り、自分の意見を認めてもらう、共感してもらう環境作り
- 協働学習におけるグループワーク
 - ・ 少人数（低学年は2人程度、中学年から高学年は4人程度のグループ）での話し合い活動やそれぞれが活動の場面で取り入れ、学び合いを活かして学ぶことができる環境作り

2 自分の目標を設定し、それに向かって学ぶ授業実践

「自分の目標を設定し、それに向かって学ぶ」ために、授業実践では、以下のよう
な点に重点を置いて実践する。

- 学習のねらいをふまえた上で、自分の目標を設定する。
- 自分の目標に向けて、どのような方法で学ぶと目標に到達するのか、教師の支援を受けながら考え、決定していく。
- 自分がどのように学ぶのか見通しをもたせ、必要に応じて、仲間や大人の力を借りたり、人に自分の力を貸したりし、方法を修正しながら目標の達成に近づける。

児童の発達段階に応じて、取り組みの内容、目標とする児童の姿を考え実践する。

Ⅲ 確かめ方と年間計画

☆ 確かめ方

- ・ 授業実践から、学び合いを活かして、自分の目標に向かい学ぶことができたかを検証する。抽出児童が一つの単元や年間を通して、どのように変化していくか発言内容、記述内容から知る。

☆ 研究授業

- ・ 研究授業では、「学び合いを活かして、自分の目標に向かう姿」または、「自分の目標に向かって、方法を決め、活動する場」が設定されており、学びに向かう児童の姿が見られる実践を行う。

- ・ 教科は特に指定はしないが、児童がそれぞれの自分の目標に向かって学ぶ場面がふくまれているようにする。
- ・ 各学年の授業の様子を見に行き、手立てや授業展開をシェアできるようにする。
(授業公開は、1人1回は行う)
- ・ 進捗状況を確認するため、学期末に1回ずつ会をもつ。

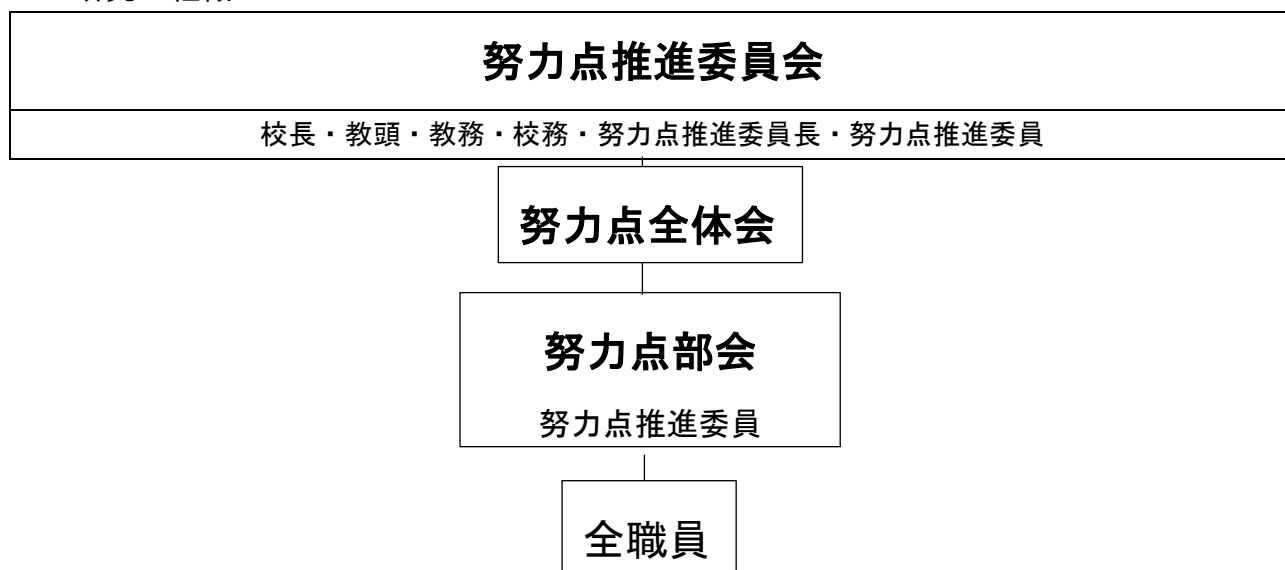
☆ 研究のまとめ

- ・ 研究授業の指導案を各クラス A4 用紙片面1枚程度にまとめることで、研究のまとめとする。
- ・ 研究の様子は、学年だよりなどを通じて、保護者にも伝わるようにする。
- ・ 学年末の学級懇談会で保護者に何らかの形でお知らせする。

☆ 年間計画

月	日	曜日	内 容
4	2	火	推進委員会 基本方針の検討
4	12	金	全体会 基本方針の確認、実践について
4	15	月	学級懇談会にて保護者に知らせる。
7	18	木	部会 1学期の様子報告&2学期に向けて確認の会
12	20	金	部会 2学期の様子報告
1	9	木	全体会 本年度のまとめ
2	17	月	推進委員会 次年度の方向性について

IV 研究の組織



各部会で話し合う内容を共通理解するため、部会前に推進委員会を設定すると共に、部会後には報告し合う機会を設定する。